

北海道札  
陽

曲辰科  
大孝子

八田三郎  
有親

入



大坂市西區南船場

勝存忠兵衛

印  
力七



料重木回の生るお新お  
見ゆ。此界石段の爲  
芒乃又と譽の類之

以この外実を本日

赤鉄了 あち地刊の  
三西日報

會招載仕の斯一と  
成

成に上へ向こひ得ひ

成就せしめむあは

男の一と相立たる一

河成・運動出月中

物この証決心しん

三の甚なるるを報知

今一と九時東京若

西の類明る名見

展開の事待り証

今一ノナカ時東条君  
西の教明の名見家

展 関の字傳ふ録心

一日録上りて復具

出いりて伝はるる乙

名をし一子臨仕に

前使申す少生よりの

招請状 明りて所研

うん (先般の足存りて  
けい京又とて)

君らあつ披を語又 先般の  
あつて

ふ果てし一宮をたむ之又

仰刷の録一の申こと

つらむとてはりて

いしよをたむとて

るる白のるる

書と書とを抄する

と書とを抄する

即刷めぬは

の

い

二

須

下

的

何

何

一